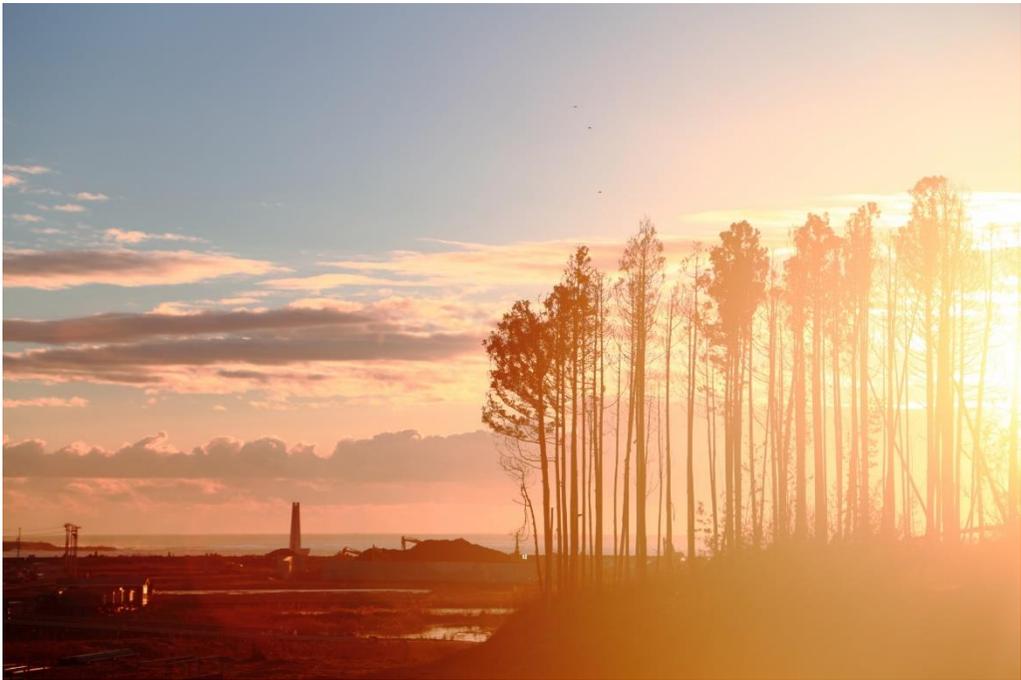


東日本大震災 13周年記念の祈り

午後2時46分の黙想
同じ時 想いを一つに 皆で祈りを

—すべての逝去者、困難のうちにある方々を覚えて—



2024年3月11日（月）午後2時15分

※ 礼拝の開始時間（午後 2 時 15 分）は目安です。礼拝が始まってから福音書朗読が終わるまでは約 10 分程度です。説教または勧話を 15 分程度としますと、午後 2 時 46 分まで約 5 分程度の黙想時間となります。

それぞれの状況に応じて、時間を調整し、この式文の全体、あるいは一部を用いて、祈りの時を共にしていただければ幸いです。

ひがしにほんだいしんさい しゅうねん きねん いの
東日本大震災13周年記念の祈り

この祈りは午後2時15分から用いてもよい。

司式者は沈黙のうちに入堂する。

ともに集う

一同立つ。

司式者 父なる神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

悔い改めの祈り

司式者 神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛してくださいました。この神の愛に応えるため、自らを省み、ともに罪の赦しを祈りましょう

ここで一同ひざまずく。しばらく自らを省みた後、一同で唱える。

一同 憐れみ深い神よ、わたしたちは、してはならないことをし、しなければならぬことをせず、思いと、言葉と、行いによって、あなたと隣りに対して多くの罪を犯しています。どうか罪深いわたしたちをお赦しください。新しい命に歩み、み心に従い、み栄えを現すことができますように、救い主イエス・キリストによってお願いいたします
アーメン

聖歌 第364番

とく とう
特 禱

司式者 主は皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司式者 祈りましょう

天地の創り主である主よ、今わたしたちは東日本大震災の発生から満13年の
日を迎え、共に祈るためにここに集いました。東日本大震災の地震と津波によ
って、そして東京電力福島第一原子力発電所事故によって大きな苦難を受
けた人々のために祈ります。またその日から今日に至るまで、新型コロナウイルス・ウ
イルス感染症をはじめ、能登半島地震や幾多の災害が日本国内において、ま
た世界の各地で起こりました。その中で犠牲となった人々、また今なお困難な
生活が続いている人々のことも思い、祈ります。どうぞあなたの慰めと励ま
しのみ力がそれら多くの人々の上にありますように。多くの災害とともに、ロ
シアのウクライナ進攻や、イスラエルのパレスチナ・ガザ地区進攻など争いと
憎しみの絶えることのないこの世界にあって、わたしたちがあなたの創造の
美しさを回復させるため、小さな器として用いられますよう、力と導きをお与
えください。苦しみ、悩む人々と共に歩まれる主イエス・キリストによってお
願いいたします。アーメン

き
ともに聞く

司式者 聖書のみ言葉を聞きましょう

会衆は着席する。

だい ろうどく
第1朗読

朗読者 第1の朗読は、ミカ書 第4章 1節から

1 おわりの日に

主の家の山は、山々の頭として堅く立ち

どの峰よりも高くそびえる。

そして、もろもろの民が川の流れのようにそこに向かい

2 多くの国民が来て言う。

「さあ、主の山、ヤコブの神の家に登ろう。

しゅ みち わたし しめ
主はその道を私たちに示してください。

わたし みち あゆ
私たちはその道を歩もう」と。

おし
教えはシオンから

しゅ ことば で
主の言葉はエルサレムから出るからだ。

3 しゅ おお たみ あいだ さば
主は多くの民の間を裁き

とお はな つよ くにぐに はんけつ くだ
遠く離れた強い国々のためにも判決を下される。

かれ つるぎ すき
彼らはその剣を鋤に

やり かま う なお
その槍を鎌に打ち直す。

くに くに む つるぎ あ
国は国に向かって剣を上げず

もはや たたか まな
もはや戦いを学ぶことはない。

(ミカ 4: 1-3)

朗読者 第1の朗読を終わります

し へん だい へん せつ
詩 編 第31編1-24節

1 しゅ のが はじ お せいぎ
主よ、あなたのもとにわたしは逃れる || とこしえに恥を負わず、正義
によって救ってください

2 みみ かた たす のが いわ すく とりで
耳を傾けて助け || わたしの逃れの岩、救いの砦となってください

3 いわ とりで な みちび だ
わたしの岩、わたしの砦 || み名にふさわしくわたしを導き出し

4 かく たす だ のが
隠れたわなからわたしを助け出してください || あなたはわたしの逃
げ場

5 て れい しゅ かみ
あなたのみ手にわたしの霊をゆだねます || 主よ、まことの神よ、わたし
を贖ってください

6 ぐうぞう はし もの き よ たの いつく
むなしい偶像に走る者を避け || わたしはあなたに寄り頼み、慈しみを
よろこ いうた
喜び歌う

7 くる め そそ なや ころろ と
あなたは苦しむわたしに目を注ぎ || 悩むわたしに心を留められた

8 てき て わた ひろ ところ あし た
敵の手にわたしを渡さず || 広い所にわたしの足を立たせてくださ
った

9 しゅ なや くる あわ しめ め かな
主よ、悩み苦しむわたしに憐れみを示してください || わたしの目は悲
しみに衰え、身も心も弱り果てた

10 いのち かな き さ としつき なげ す き くる
わたしの命は悲しみで消え去り、年月は嘆きのうちに過ぎ去った || 苦

- しみに^{ちから}力は^つ尽き果て、骨は^{ほね}枯木^{かれき}のようになった
- 11 敵^{てき}はみなわたしを^{おそ}あざけり、わたしは^{とな}隣り^{びと}人の^{わざわ}災いと^{した}なる^{とも} || 親しい友
はわたしを^{おそ}恐れ、^あ会う^{ひと}人は^さ避けて^せ背を^む向ける
- 12 わたしは^し死んだ^{ひと}人の^{わす}ように^{こわ}忘れられ^{うつわ} || 壊れた^器のようになった
- 13 人びとの^{ひと}ささやきが^き聞こえる。^{きようふ}恐怖^{まわ}が^{しの}周りから^よ忍び^り寄り || わたしに^は刃
向かう^む者が^{もの}集まって、^{あつ}わたしの^{いのち}命を^{いのち}ねらっている
- 14 主よ、わたしは^{しゅ}あなたに^よ寄り^{たの}頼む^{かみ} || 「あなたこそわたしの^{かみ}神」
- 15 あなたの^てみ手に^{いのち}わたしの^{いのち}命を^{てき}ゆだね^{おって}ます || わたしの^{すく}敵と^{すく}追手から^{すく}救
い^だ出してください
- 16 あなたの^{かお}顔を^{しもべ}僕^{うえ}の上に^{かがや}輝かせ || ^{いつく}慈しみ^{すく}によって^{すく}救ってください
- 17 あなたに^{さげ}叫ぶ^{はじ}わたしは、^う恥を受ける^あことが^あない || ^{あくにん}悪人は^{はじ}恥を^{くち}さらし、^{くち}口
を^しふさがれて^{くち}死の^お国に^お落とされる
- 18 あなたに^{したが}従^{ひと}う人を^{たか}さげ^{もの}すみ^{いっわ}高ぶる^{もの}者 || ^{いっわ}偽りを^{かた}語る^{もの}者の^{くち}口を^{ふう}封じてく
ださい
- 19 神よ、^{かみ}慈しみ^{いつく}はあなたを^{うやま}敬^{ひと}う人に^{ゆた}豊かに^{あふ}溢れ || あなたに^{たよ}頼る^{もの}者に^{そそ}注
がれて、^{ひと}人びとに^{しめ}示される
- 20 彼らは^{かれ}あなたのもとで、^{ひと}人の^{まも}そしりから^{まも}守られ || ^{まくや}幕屋^{なか}の中で^{たくら}企みから
^{のが}逃れる
- 21 主を^{しゅ}ほめた^{てき}た^{かこ}たえよう || 敵に^{ところ}囲まれた^{かみ}所で、^{はか}神は^し計り^{いつく}知れない^{しめ}慈しみ
を^{しめ}示された
- 22 かつてわたしは^{おそ}恐れ^{まど}惑い、「^{かみ}神^{みはな}に見^あ放^きされて^いしまった」と^いつぶやいた ||
しかし、^{さげ}わたしが^あ叫びを^{かみ}上げると、^き神は^い聞き^い入れられた
- 23 もろもろの^{せいと}聖徒^{しゅ}たちよ、^{あい}主を^{しゅ}愛^{せいじつ}せよ || ^い主は^{せいじつ}誠実に^い生きる^{ひと}人を^{まも}守り、^{おも}思い
^あ上がる^{もの}者に^{きび}厳しく^{むく}報^いられる
- 24 主を^{しゅ}待ち^ま望^{のぞ}む^{ひと}すべての^{つよ}人よ || ^お強く^お雄々^おしく^ああれ

福音書

朗読者 ルカによる福音書 第10章 25節から

25すると、ある律法の^{りっぽう}専門家^{せんもんか}が^た立ち上がり、^あイエスを^{ため}試^いそうとして言った。

「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」²⁶ イエスは言われた。「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか。」²⁷ 彼は答えた。「『心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」²⁸ イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」 (ルカ 10:25-28)

朗読者 ルカによる福音書を終わります

* 勧話または説教

勧話または説教をする。

* 沈黙

午後2時46分まで沈黙のうちに待つ。

* 打鐘

午後2時46分に鐘を鳴らす。

一同、鐘とともに立ち、1分間、黙祷の時を持つ。

黙祷後、次の唱和を用いる。

司式者 東日本大震災によるすべての犠牲者を覚えます

主よ 永遠の平安をこの人々に与え

会衆 絶えざるみ光をもって照らしてください

使徒信経

一同立ち、歌いまたは唱える。

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。

また、その独り子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。主は聖霊に

よって^{やど}宿り、おとめマリヤから^う生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで^{くる}苦しみを受
け、十字架^{じゅうじか}につけられ、死^しんで^{ほうむ}葬られ、よみに^{くだ}降り、三日目に^{みつかめ}死人の^{しにん}うちか
らよみがえり、天^{てん}に昇^{のぼ}られました。そして全能^{ぜんのう}の父^{ちち}である神^{かみ}の右^{みぎ}に座^ざしておら
れます。そこから主^{しゅ}は生きて^いいる人^{ひと}と死^しんだ人^{ひと}とを審^{さば}くために来^こられます。
また、聖^{せい}霊^{れい}を信じ^{しん}じます。聖^{せい}なる公^{こう}会^{かい}、聖^{せい}徒^との交^{まじ}わり、罪^{つみ}の赦^{ゆる}し、体^{からだ}のよみが
えり、永^{えい}遠^{えん}の命^{いのち}を信じ^{しん}じます アーメン

平和の挨拶

司式者 キリストはわたしたちの^{へいわ}平和です

会衆 わたしたちは主^{しゅ}のみ名^なによって^{であ}出会い、主^{しゅ}の平和^{へいわ}を分かち^わ合^あいます

司式者 平和^{へいわ}の挨拶^{あいさつ}を交^かわしましょう

ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

献げもの

ここで次の言葉を用いてもよい。あるいは他のふさわしい言葉か聖句を用いてもよい。

司式者 主^{しゅ}の救^{すく}いのみ業^{わざ}に感謝^{かんしや}し、とも^{さんび}に賛美^{ささ}を献^{ささ}げましょう

信施はここで集める。その間に聖歌を用いてもよい。

信施を献げるときは、以下の言葉を歌いまたは唱えてもよい。

司式者 すべて^{しゅ}のものは主^{たまもの}の賜物

一同 わたしたちは主^{しゅ}から受^うけて主^{しゅ}に献^{ささ}げたのです アーメン

ともに祈る

司式者は次のように言う。会衆の代表者が言ってもよい。

司式者 救^{すく}い主^{ぬし}イエス・キリストのみ^{ことば}言葉とみ業^{わざ}に頼^{たよ}り、全^{ぜん}公^{こう}会^{かい}のため、また
世界^{せかい}のために、こと^{ひがし}に東^に日本^{ほん}大^だ震^{しん}災^{さい}を覚^{おぼ}えて祈^{いの}りましょう

司式者 慈^{いつく}しみ深い^{ふか}神^{かみ}、慰^{なぐさ}めの主^{しゅ}よ、今^{いま}、わたしたちは13年を経た東日本^{ねん へ ひがしにほん}
大震災^{だいしんさい}を覚^{おぼ}えて祈^{いの}ります。どうか、被災地^{ひさいち}にある人^{ひと}、避難生活^{ひなんせいかつ}を強^し
られている人^{ひと}、特に日本社会^{にほんしゃかい}の中で生きる^{なか}ことの困難^いに苦しむ^{こんなん}人^{くる}、
将来^{しょうらい}の希望^{きぼう}を見^みい出^だせない人^{ひと}を支^{ささ}えてください

会衆 主^{しゅ}よ、お聞^ききください

司式者 原子力^{げんしりょく}発電所^{はつでんじょ}事故^{じこ}により、失^{うしな}われた自然^{しぜん}と人々^{ひとびと}の生活^{せいかつ}を覚^{おぼ}えます。
故郷^{ふるさと}を離^{はな}れて生活^{せいかつ}する人^{ひと}、危険^{きけん}な作業^{さぎょう}に従^{じゅうじ}事^じする人^{ひと}とその家族^{かぞく}
お守^{まも}りください。そして政治^{せいじ}と社会^{しゃかい}に責任^{せきにん}を持^もつ人々^{ひとびと}に正^{ただ}しい道^{みち}
歩^{あゆ}ませてください

会衆 主^{しゅ}よ、お聞^ききください

司式者 わたしたちもまた、これらの苦難^{くなん}をつねに覚^{おぼ}えることができますよ
うに。日本聖公会^{にっぽんせいこうかい}の被災者^{ひさいしゃ}支援^{しえん}の働^{はたら}きを強^{つよ}めてください。そしてわ
たしたちも思^{おも}いと力^{ちから}を合^あわせて、共^{とも}に歩^{あゆ}み続^{つづ}けることができるよう
に導^{みちび}いてください

会衆 主^{しゅ}よ、お聞^ききください

司式者 いのちの源^{みなもと}である主^{しゅ}よ、東日本大震災^{ひがしにほんだいしんさい}のすべての犠牲者^{ぎせいしゃ}、そして
世界各地^{せかいかくち}の災害^{さいがい}と争^{あらそ}いの中^{なか}で生命^{いのち}を失^{うしな}った人々^{ひとびと}を、あなたのみ腕^{うで}
の中^{なか}に抱^{いだ}き、永遠^{えいえん}の安らぎ^{やす}を与^{あた}えてくださいますように

会衆 主^{しゅ}よ、これらの祈^{いの}りを主イエス・キリストのみ名^なによって願^{ねが}いいた
します。アーメン

主^{しゅ}の祈^{いの}り

一同ひざまずく。

司式者 主^{しゅ}よ、憐^{あわ}れみをお与^{あた}えください

会衆 キリストよ、憐^{あわ}れみをお与^{あた}えください

司式者 主^{しゅ}よ、憐^{あわ}れみをお与^{あた}えください

次に一同、主の祈りを歌いまたは唱える。

てん ちち
天におられるわたしたちの父よ、

な せい
み名が聖とされますように。

くに き
み国が来ますように。

てん おこな ち おこな
みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。

ひ かて きょう あた
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

つみ ひと
わたしたちの罪をおゆるしくください。わたしたちも人をゆるします。

ゆうわく
わたしたちを誘惑におちいらせず、

あく すく
悪からお救いください。

くに ちから えいこう えいえん
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

かん しゃ 感 謝

いの
司式者 とともに祈りましょう

みなもと かみ とお はな こ
すべてのものの源である神よ、あなたは遠く離れていたわたしたちを、み子

で あ しゅ いえ まね あい かん
との出会いをとおして主の家に招いてくださいました。このあなたの愛に感

しゃ な ことば めぐ へいわ
謝し、み名をほめたたえます。あなたからいただいたみ言葉と恵みと平和を、

ひと わか あ せいれい
わたしたちがすべての人びとと分ち合うことができますように。そして聖霊

みちび ひかり せ かい て はたら あずか
の導きにより、あなたの光でこの世界を照らす働きに与らせてください。

あた きぼう か たも
またあなたがわたしたちに与えてくださった希望を変わることなく保たせ、

な しゅ
すべてのものがみ名をほめたたえることができますように、主イエス・キリス

ねが
トによってお願いいたします アーメン

しゅ い 主 と と も に 行 く

終わりに司式者は次のように言う。

かぎ あい めぐ かみ よ ひと よ き ひと ぜんこうかい
司式者 限らない愛と恵みの神が、世にある人と世を去った人との全公会を、

こ ふっかつ くに よろこ みちび
み子イエス・キリストによる復活とみ国の喜びに導いてくださいま

すように

会衆 アーメン

は けん しょう わ
派遣の唱和

一同立って、次の唱和を用いる。

司式者 ^{かみ}神と^{ひと}人とに^{つか}仕えるために^い行きましょう

会衆 ^{しゅ}主のみ^な名によって **アーメン**

ここで聖歌を用いてもよい。

聖歌 第 476 番

